

天沼中だより

8天沼中 第111号
令和8年5月29日
杉並区立天沼中学校
自主・自律・共生



「大成功の運動会と働き方改革」

校長 池田 和幸

令和8年度の運動会は、これから改築に関する準備工事が始まることもあり、この校舎の景色で実施できる最後の運動会となりました。その最後の運動会を飾るにふさわしい運動会になりました。今年も3年生が最上級生としての自覚をもち、1、2年生を引っ張り、真剣に学校行事に取り組む素晴らしさを多くの場面で感じることができました。練習の段階から、応援の声の大きさや集中力は3年生らしさにあふれており、一昨年度、昨年度に続き、今年度も今年の3年生らしさが発揮された素敵な運動会でした。

本校は地域の中にある公立中学校として、天沼中を卒業したことを誇りに思い、共に学んだ生徒同士が思い出を共有し、一生のかけがえのない仲間として、これからの地域を支えていこうとする人材を育てていきたいと考えています。急速に変化する激動の社会の中でも、現実世界における人と人との関わりは決してなくなりません。学校という場において、人と人との関わりの中から、大きな学びと成長が得られる領域として、特別活動の大切さはより高まっていると考え、昨年度は学校行事を中心とした特別活動の充実を図ってきました。その成果もあり、一昨年度の縦割りの色別リレーの実施、昨年度の学年種目の実施、今年度は生徒会種目における応援合戦の実施と、運動会の実施内容を充実させることができました。特に今年の応援合戦は、生徒会役員の企画で始まり、内容の企画立案、応援団の募集、練習計画と練習実施とほぼ全てを生徒の力で創り上げ、少ない時間の中で素晴らしい演技を行えたことは、本校の教育目標である「自主」「自律」「共生」を生徒達が体現していたように感じました。

この充実を持続可能なものにするためにこそ、働き方改革という視点が重要になってきます。行事の内容が充実していくと、「もっとよりよいものを目指したい」「もっと生徒達が感動するような行事にしたい」といった様々な思いが募ってきます。教職に携わるものとして、生徒の成長こそが喜びであり、我々のやりがいです。しかし、これまでの学校文化の中で、「やりがい」という言葉を大義名分として、教員の過重な負担のもとに学校行事が運営されて

いた反省が広まり、学校における働き方改革が喫緊の課題として取り上げられている現状では、限られた時間の中で充実した学校行事を運営することが求められています。

私が担任だった頃は、運動会のために朝練習・放課後練習を2週間行うことは当たり前の光景でした。教員としての勤務時間は変わりませんし、日々の授業が減って業務が軽減されていることもありません。その頃の運動会練習期間は、教員が勤務時間を超えた負担を負うことによって学校行事が成り立っていた時代でした。そういった時代に戻ってほしいとは思いませんし、決して戻るべきではないとも考えています。これからの時代に求められることは、いかに限られた時間の中で充実した学校行事を実施できるか、という視点です。時間をかければより高度なもの、より複雑なものができるという面があります。しかし、同じ時間でより質の高いものを実現できるなら、それこそが真の指導力です。視点を変えれば、我々教員の指導力が一層試されている時代となったとも言えるでしょう。

今年度の本校の運動会の内容は、現在の練習期間・練習時間で安全に実施できる最大の規模ではないかと考えています。次年度以降はこの形をベースにしながら、より生徒が成長できるように指導し、一層充実した行事となるようにブラッシュアップしていきたいと考えています。実施会場の検討もしなければならぬこともありますので、実施内容が大きく変わる可能性があります。運動会にかかる時間を増やさずによりよいものを目指していきたいと思います。

今年度多くの保護者の方、地域の方にご来場いただき誠にありがとうございました。テントの撤収についても多くの保護者の方にご協力いただき、速やかに片付けることができましたことを、併せて御礼申し上げます。生徒の成長の様子をご覧いただけたことがアンケートからも伝わってきました。教員への励ましのお言葉も我々にとって大きな力となっています。今後も保護者・地域の皆様のお力添えをいただきながら、ともによりよい学校を目指してまいります。

生徒総会

5月12日（火）



前期生徒総会が行われました。各委員会や生徒会役員会が作成した議案書をもとに、各クラスで討議が行われ、そこで挙がってきた質問や意見に対する答弁が行われます。今期の総会では、特に質問や意見は出されませんでした。以前の総会では、常任委員会の男女卒の撤廃など、生徒会規約について意見を出し合い、活発な話し合いが行われました。生徒全員でより楽しい学校にしていけるためには、どうしたらよいかを考え、意見を出し合っていきたいと思います。

離任式

4月28日（火）



3月に異動された先生方、お世話になった職員の方々へ感謝の気持ちを伝える離任式が実施されました。ご来校された方々には、代表生徒が感謝の言葉を読み上げてくれました。在校生による「校歌」や「地球星歌」の歌声からは異動された方々への感謝の心が伝わってきました。離任式後も、校長室まであいさつに来る生徒や、廊下で先生との別れを惜しむ生徒達の姿がたくさん見られました。

おしゃべり ウィーク

5月7・8・11日

おしゃべりウィークは天中の特色の一つで、気軽に、先生方となんでもおしゃべりする時間です。全教職員のうち、だれとおしゃべりをしたいか全校生徒に希望をとって実施します。成長が著しく、気持ちが不安定になりやすい中学校3年間、悩みを一度もたない生徒はいません。心の中にある「もやもや」を言葉に出すことによって少しでも前を向けるように、また、いろいろな先生と仲良くなって、困ったときに相談しやすくなるように、との願いで天中で10年以上続いているものです。夏休み（三者面談期間）には保護者の方との「おとなおしゃべりウィーク」も希望制で行う予定です。

教育実習

5月11日（月）

～29日（金）



学校へ配置する教員の数に欠員が生じる教員不足について、文部科学省も実態調査と対応策を打ち出し、今年も2人の教育実習生が本校に来ました。社会科の実習生は1年A組に、養護の実習生には2年B組に入ってくださいました。それぞれの教科や専門分野の実際の職務について、実践を通して理解を深めるだけでなく、給食を一緒に食べたり、運動会の練習にも参加しながら、生徒の皆さんと交流を深め、本番の23日の運動会にも運営補助に臨みました。大学生としてのキャンパスライフを離れ、自らの将来の希望を叶えるために様々な実習を経験し、とても貴重な3週間を過ごしました。

今年も「ことだま百選」がスタートしました。

天沼中学校の特色的な教育活動の一つである「ことだま百選」が今年も始まりました。4月28日から始まった朝の活動には教職員だけでなく、たくさんの保護者、学校支援本部の皆様にご協力いただいております。

子どもたちの学習活動の意欲向上に欠かせないのが、周囲の大人による「見取り・価値づけ」です。学習活動に取り組む姿や経過を「見取り」、取り組む姿勢や活動の結果を「価値づけ」することは子どもたちの自主性を育てる上で重要な取組です。今後ご協力をよろしくお願いします。



評価評定説明会

5月15日（金）

説明会当日は、平日にもかかわらず多くの保護者の方にご参加いただきました。3つの観点の評価とそれらを総括した評定について、教務主任からそれぞれ説明を行いました。さらに、実際の評価資料の例をもとにした評価・評定の算出の過程を示し、どのようにして評定が決まるのかを示したほか、よく頂く御質問について回答しました。

当日御欠席の方には、生徒を通じて説明資料をお渡ししました。どうぞ御覧ください。また、説明会の後には様々なご意見をいただき、ありがとうございました。今後の教育活動の参考にし、さらに分かりやすい評価評定を目指していきたいと思っております。なお、皆様にお話した内容は、評価評定オリエンテーションとして1学期終業式の前に、教務主任より生徒向けにも分かりやすく説明を行います。

部活動保護者説明会

5月15日（金）

評価評定説明会の後、部活動保護者説明会を実施しました。各部の顧問を校長が紹介し、生活指導主任より部活動全体の決まり等について説明しました。全体会の後半では、コミュニティふらっと本天沼の方々より、コミふら部（仮称）について説明していただきました。

全体会の後に行われた各部の保護者会では、顧問から本年度の部活動の方針や内容について説明があったことと存じます。引率の一部や部費の会計など、保護者の皆様にも御協力いただいております。感謝申し上げます。生徒たちが健やかに活動し、かけがえのない経験ができるように支えてまいります。

フrendシップスクール

山梨県北杜市

4月23・24日

中学1年生が交流を深め、団体生活を学ぶことを目的としたフrendシップスクールが今年も行われました。今年度も山梨県のハケ岳で、様々なアクティビティや体験活動を行いました。

【1日目】

午前中は、高根クラインガルテンにて、ほうとうづくりを体験しました。各班が協力し、朝どりレタスとともに、おいしいほうとうをいただきました。午後はいいにくの雨となり、ハケ岳ビジターセンターや野辺山の電波望遠鏡を見学しました。その後、宿舎では夕食や実行委員主催の学年レクを通して、学年の交流を深めました。



【2日目】

前日の雨も上がり、宿舎で朝食を取ったあと、国際自然大学校 日野春校にて、冒険教育プログラムに取り掛かりました。お互いに声を掛け合い、アイデアを出しながら難くなる課題に協力しながら取り組んでいました。充実した2日間となりました。

